

平成28年4月28日

厚生労働省障害福祉課
全国社会福祉協議会
全国身体障害者施設協議会
熊本県身体障害児者施設協議会
熊本県障がい者支援課
熊本市障害保健福祉課

御中

熊本県身体障害児者施設協議会
会長 三浦 貴子
(愛隣館)

熊本地震における支援等の状況報告について（10号）

4月28日木曜日の報告をします。

支援協力者一福岡県慈久園の池崎さん・松尾さん。

物資等の受け入れ一全国身体障害者施設協議会東北・北陸ブロックより支援金。愛媛県10施設より物資とお便り。千葉県永幸苑より食料等。岡山県のみすず荘よりおむつ等。

【活動と現状について】

- ① 日野全国身障協会長と三浦で朝10時半より夜8時まで県内被災施設のうち3ヶ所のお見舞いと視察、益城町避難所の訪問・視察を行いました。

・阿蘇市たちばな園

16日から泊まり込みの佐藤施設長、佐藤副施設長方に迎えられました。今回の災害には本当に参った。協議会の支援に助けられ、組織は強いと思った。16日に大分から届けられた給水タンクは今もありがたく使っている。地域の人々にも水や食料を分けている。入浴はタンク車で温泉を運ぶ等してなんとか行っている。近くに住む職員が多いので、一緒に頑張って対応しているとのことでした。欠いている生鮮食品を届けました。施設の付近には道路が2m程陥没した箇所があります。山々は土砂崩れの跡が残り、危険な状態が続いています。

・熊本市朋暁苑

被災されている落合施設長、新設特養の西山施設長と話しました。ライフラインが回復してきて、少し落ち着いた。地震直後は地域住民が施設に避難され、その中のお一人が持病の為亡くなられた。支援物資には、施設利用者、職員も助けてもらい、また被災した地域住民にも一部配ることができ、感謝している。職員の多くが被災し、家の中はグチャグチャになったが、くじけずに仕事していると伺いました。

・熊本市くまむた荘

地震から10日間車中泊だった柳田施設長、中西サビ管、佐々木事務長に話を聞き、施設の建物、敷地に無数の亀裂と段差の残る甚大な被害を視察しました。

激震地の益城町から通う職員をはじめ、大半の職員が被災し、車中泊、避難所から勤務している者も少なくない。

建物が危険な状態なので、昨日まで施設内のホールに集めて生活支援をしていた。建物の検査後、今日から居室に一部戻ることができた。職員の疲労をなんとか軽減したく、

日本財団にボランティアの募集をかけたが、介護技術を希望、宿泊での受け入れができないこともあり、まだ見つからないとの状況でした。

迅速な人的支援の必要性を判断。熊障協(天草星光園協力)から、5月2日より5月8日まで2名、福障協(千歳療護園等)から、高速の復旧に合わせて2名~4名の通いの支援を行うことを計画しました。

- ② 益城町の避難所の人々の入浴送迎支援計画を調整しました。切実な入浴ニーズに対し、山鹿市社会福祉協議会、山鹿温泉観光協会と連携し(旅館の浴室を提供)、マイクロバスの提供(社協、施設、ホテルなど)と九州からの応援による運転の支援により、入浴送迎支援を週に1~2回程度行う計画が立ちました。30日土曜日が初回予定です。機械浴が必要な方々は、愛隣館を利用頂きます。
- ③ 合志市「れんがの家」より、物資を必要としているとの連絡があり、提供しました。

(連絡先) 障害者支援施設愛隣館
TEL : 0968-43-2771
FAX : 0968-43-2793